

中国 台湾 韓国 インド携帯電話四半期出荷動向

2008年3Q(7-9月)調査結果概要

ワールドワイドの3Qの端末出荷は前期並みに推移したが、中国、台湾、韓国3カ国全体の端末出荷は前期をやや下回った。ただ韓国はWon安から海外向け出荷が増加し前期を上回った。

その他地域では2Qに続いてNokiaがインド、ルーマニアの端末生産を増加させたもようである。中南米の端末生産拠点ブラジルは貿易統計によると、輸出数量は前期並みの水準で推移した。

中国

3Qの中国出荷は国内向けが前期を下回り、輸出を含めた全体出荷も2Qを下回った。中国国内向け出荷はNokia、Samsungがシェアを拡大、国産メーカーではTianyuに続いてChanghong(長虹)が3Qではブランド力を背景に出荷を伸ばした。

China Telecomは11月にCDMAのミッド、ハイエンド端末を市場投入する。China Telecomは5月の再編後に端末調達に動いていた。調達先の最大のメーカーはYulong Computer Telecommunication Scientificで総調達台数の70%を占める。Yulong ComputerはデザインハウスになるがCoolpadで自社ブランド販売も行っている。同社はCDMA/GSMデュアルモード端末のリーディングカンパニーで、2007年7月QualcommシングルチップソリューションQSC6030を搭載したGSM/CDMAデュアルCoolpad 268をリリースした。

Mediatekが違法端末に対する部品供給の規制に乗り出す。中国では生産者が勝手なブランド名を使い、有名ブランドの機能や筐体を真似、政府管理下から逃れたメーカー群が多数存在する。山寨機と呼称された違法メーカーは増値税の支払いを免れ、研究開発費、広告費、販売促進費も不要なため、店頭価格は正規ブランドに対し半値以下で販売している。

違法メーカーの大半がMediatekのベースバンドを採用しているため、同社に対する責任を追及する声が聞こえるようになった。Mediatekは当初デザインハウス、ディストリビュータに部品販売するため、違法メーカーへの直接取引はないと主張していたが、今後はディストリビュータに対して販売先の端末メーカーを明示させ、明らかになった端末メーカーのみ部品供給する抑制策を打ち出した。中国では流通在庫が違法メーカーに流れるケースが多いため、在庫分の第三者への転売を制限する規制案になる。

中国国産メーカーへのベースバンドメーカーはMediatekのほか上海現地メーカーSpreadtrumが競合するが、同社の3Q業績が急速に悪化した。ベースバンド販売個数は前期に対し半減、収益面では売り上げを大きく上回る営業損失を記録した。

経営数値の激変について会社側はカスタマ発注の減少、製品展開の遅れと説明しているが、財務内容を見ると多額の長期資産減損を計上しており、3Qで一括損失処理を実施したことになる。Spreadtrumの主要ユーザはデザインハウスWingtechと端末メーカーではAmoiになる。

台湾

台湾メーカーの3Qの端末出荷は Arima、HTC の出荷が増加し、全体では2Q対比12%増を達成した。ArimaはSony EricssonのほかLG向けの出荷が増加し、前期に対して50%の大幅増になった。Arimaは2009年にはLGから大型受注を予定しており、数量ベースの拡大が予想される。ODM最大手のCompalは2Q対比横ばいで推移したが、クリスマス商戦を控えた10月にはMotorola向けに大きく売り上げを増やした。

HTCはTouch Diamondが好調な売れ行きを示し、3Qの売上、営業利益はともに前期を上回った。Touch DiamondはHTC Touchを越える販売状況とHTCは報告している。4Qについては初のAndroidモデルG1がT-Mobileから販売が開始されるため、4Qの売り上げ目標を3Q対比27%増と強気の経営見通しを発表した。

韓国

韓国の端末出荷は国内向けの低迷に対し、輸出向けが増加し全体の端末出荷は前期を上回った。国内は上半期から一転冷え込み状況に陥った。景気、端末助成金の削減など市場環境の悪化によるもので、10-12月期も3Q同様の傾向を辿る見込みである。

一方輸出は好転しており、3Qの端末輸出は前期を上回った。4Qのスタート月の10月は輸出金額ベースで過去最高を記録した。主力の北米向けが輸出を牽引している。Samsung、LGとも生産の多角化で中国シフトを加速しているが、一部の製品については韓国に一旦迂回させ再輸出させている可能性が高い。対ドル Won 安が背景にあるものとみられる。

インド

インドは端末輸入から現地生産、現地消費に端末流通は変化している。特にNokiaのインド生産が拡大しており、2008年には年間1億台前後の端末生産を達成する見通しである。

従って2006年をピークに端末輸入は低下し、2008年の端末輸入依存度は3分の1程度まで減少する。

インドでは外資メーカーのほかインド国産メーカーの端末参入も活発で家電、IT、時計など異業種の新規参入が目立つようになった。開発は中国デザインハウス、Mediatekとの連携が多くみられる。

2008年3Q(7-9月)報告書の目次

1. 4カ国の3Q(7-9月)携帯電話動向	4	3.1. 2008年3Qの端末出荷動向	27
1.1. 3カ国の端末出荷動向概況	4	3.1.1. メーカー別出荷動向	27
1.1.1. 中国	5	3.1.2. 国内、輸出別出荷推移	28
1.1.2. 台湾	6	3.1.3. 台湾、中国生産拠点別出荷推移	28
1.1.3. 韓国	6	3.1.4. メーカー別四半期出荷推移	28
1.1.4. インド	6	3.1.5. 参入各社の至近動向	29
1.2. 4カ国の加入推移	7	3.1.5.1. Arima Communications	29
1.3. 2008年4Q国別端末出荷見通し	8	3.1.5.2. Compal Communications	29
2. 中国	9	3.1.5.3. HTC	29
2.1. 2008年3Qの端末出荷動向	9	3.1.5.4. その他の台湾メーカー	30
2.1.1. メーカー別出荷動向	9	3.2. 端末メーカー四半期業績推移	31
2.1.2. 国内、輸出別出荷推移	10	3.3. 生産委託の最新状況	32
2.1.3. メーカー別四半期出荷推移	11	3.4. 加入推移	33
2.1.1. 端末プラットフォーム	12	4. 韓国	34
2.1.2. 参入各社の至近動向	14	4.1. 2008年3Qの端末出荷動向	34
2.1.2.1. Nokia	14	4.1.1. メーカー別出荷動向	34
2.1.2.2. Motorola	14	4.1.2. 国内、輸出別出荷推移	34
2.1.2.3. Sony Ericsson	15	4.1.3. 国内需要のメーカー出荷シェア	35
2.1.2.4. Samsung	16	4.1.4. メーカー別四半期出荷推移	35
2.1.2.5. LG	16	4.1.5. 参入各社の至近動向	36
2.1.2.6. Ningbo Bird	17	4.1.5.1. Samsung	36
2.1.2.7. TCL	18	4.1.5.2. LG Electronics	38
2.1.2.8. Lenovo	19	4.2. 加入推移	40
2.1.2.9. ZTE	19	4.2.1. オペレータ別加入推移	40
2.1.2.10. その他国産メーカー	20	5. インド	41
2.2. 加入推移	23	5.1. 端末メーカー動向	42
2.3. TD-SCDMA	25	5.2. 加入推移	47
2.4. オペレータ再編	25	6. 参考 日本の四半期出荷推移	48
2.5. PAS (PHS) 普及状況	26	7. 主要中国、台湾メーカーの表記一覧	49
3. 台湾	27		